

未来へ繋ぐ力

～AYA世代のための移植ケアと心のサポートセミナー～

12/21(土)

10:00～11:10

開催報告

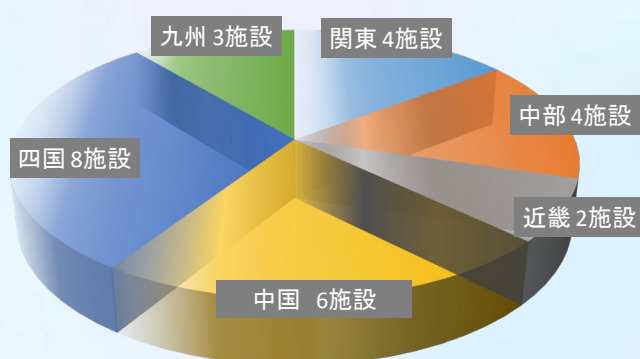
開催方法:web開催

参加者 : 41名

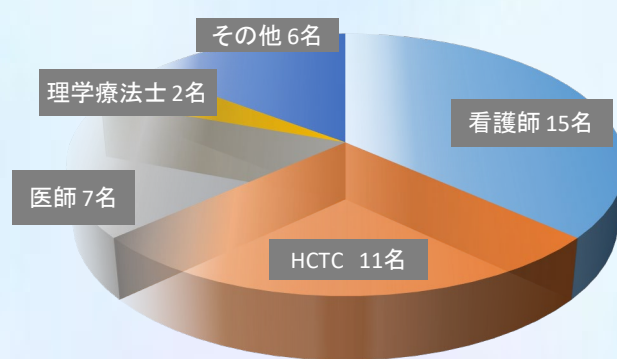
参加施設: 27施設

ブロックを越えて多くの方々にご参加いただきました。

【参加施設】



【参加職種】



AYA世代の特徴と関わり方

愛媛県立中央病院 公認心理士/臨床心理士 岡本千愛

愛媛県立中央病院の公認心理士 岡本千愛の「AYA世代の特徴と関わり方」と題した講演を御視聴頂きました。

AYA世代の抱える発達課題と、医療の現場でAYA世代を支える難しさの2点について、詳細な話を聞いて頂きました。

人生、勝ち負けは常に付きまといますが、勝つことよりも負ける事の方が多いものです。AYA世代の悩みを扱う際、勝ち方よりも負け方、つまり、どのようにうまく負けるか、という視点を理解することは大事だと分かりました。そして、AYA世代の援助において、本人たちはなかなか援助を求めようとしない中、つながり(持続的な関係性)を持つ事が重要になってくることも知る事が出来ました。AYA世代の患者さんの言葉を遮らず、耳をしっかりと傾けることが重要と思います。

今回の講演で学んだ事は、今後AYA世代の患者さんに関わる医療従事者が十分理解しておくことで、患者さんとの関係性をよりスムーズにできると思います。

造血幹細胞移植を受けるAYA世代患者の セルフケア能力を高める看護支援 - 「ありのままの自分」を支える看護について考える -

大阪母子医療センター 看護部 副看護師長 福地 朋子先生

造血幹細胞移植治療を受けるAYA世代患者の看護支援を考えるにあたり、日頃感じているモヤモヤ感を整理して頂きました。「AYA世代患者は個別性が高く、何を優先すればよいのかわからない。」「本人の本心が掴めず、気持ちの揺れにどう対応すればよいのかわからない。」「患者教育をしても有効な指導ができない。」「長期的な介入が必要でライフプランには個人差がある。」など多くの点が挙がりましたが、そのような中でどのような対応が、何が大切なのかを考えていきました。

造血幹細胞移植を受けたAYA世代患者は、様々な臓器症状と付き合いながら社会生活を送ることになるため、セルフケア能力を高めるケアが必要になります。そのためには、移植を受ける前にセルフケア能力を向上させその生活習慣を維持する、自分のことは自分でする、その意識がセルフケア能力の向上に繋がること。患者の症状体験を理解する、背後にあるものをしっかりと捉え、逃げ道を一緒に考えること。看護支援を意図的に言葉で伝えること。患者の価値観を尊重することが重要であると学びました。また、AYA世代患者の移植との向き合い方について、治療と仕事の両立、妊孕性、家族との関係のケースについても伺うことができました。

ありのままの自分を支える看護とは、対話するプロセスを大切にし、自立・自律を支えることを学ぶことができました。

講師を務めていただいた先生方、
参加していただいた皆様、ありがとうございました。
次回のセミナーも、ご都合がよろしければご参加いただけますと幸いです。

造血幹細胞移植推進拠点病院
愛媛県立中央病院

